

「掛レ軸」/2011年カレンダー

マンガ学科

関口 尚

calendar + kakejiku

Department of Manga

SEKIGUCHI Takashi

カートゥーン（ヒトコマ漫画）はそれ自体独立したものでもあるが、その使い方によってはユーモア・笑い・風刺などメッセージ性の高いイラストレーションにも成り得る。カートゥーンの存続が危ぶまれる現在、旧来の新聞や雑誌という限定されたメディアに捕われず、イラストレーションとして様々なメディアに展開していく事が、今後のカートゥーン界には必要であると考えている。カートゥーンの効用と可能性を探るべく、カレンダーに落とし込んでみた。元々は日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）主催の展覧会「JAGDA CALENDAR SALONE 2011」に出品する為に制作したものである。テーマは「エコロジー」。

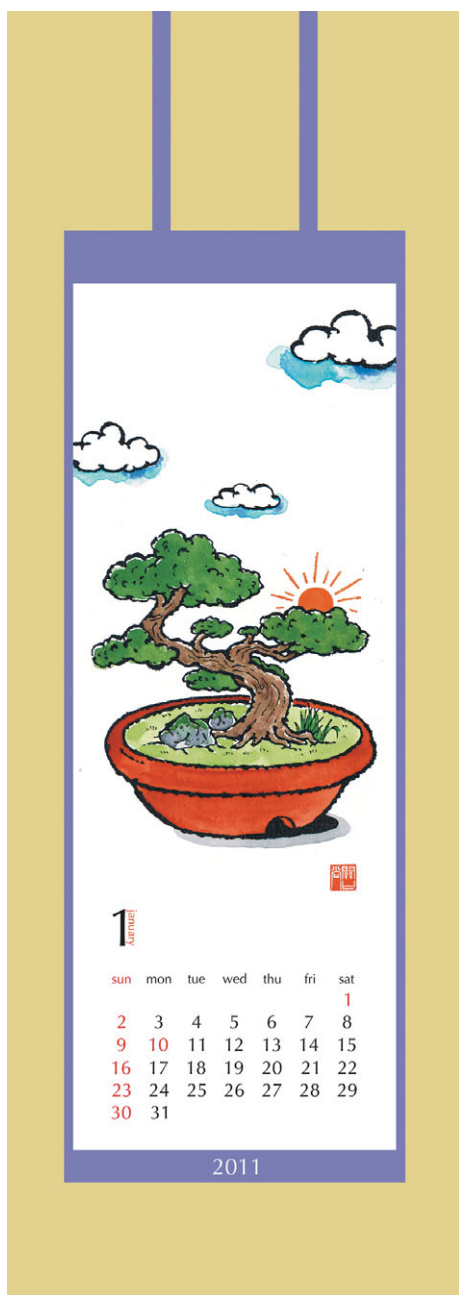
壁掛けカレンダーは最低でも一ヶ月、長いものだと一年も同じビジュアルを見続けなければならない。これはどんな名画や美女であっても飽きてしまうものだ。存在感がなく月が変わっても、めくるのを忘れてしまうこともしばしば。そこで「掛け軸」のようにある程度長い期間であっても、存在感を放ちつつ部屋の中に収まっているものを目指してみた。掛け軸風デザインに、時に風刺を交えたユーモラスなイラストレーションを組み合わせることで、飽きさせない工夫をしたつもりである。時々眺めて頭の中でクスッと笑ってもらってもよし、日々違う捉え方でエコロジーについて考えてもらうもよし、ただそこに何となく掛かっているでもよし。床の間のないウサギ小屋住まいの方にも、一輪挿しと「掛け軸」でささやかな贅沢感と、ユーモアと笑いのある2011年はいかが？

「JAGDA CALENDAR SALONE 2011」展示コメントより

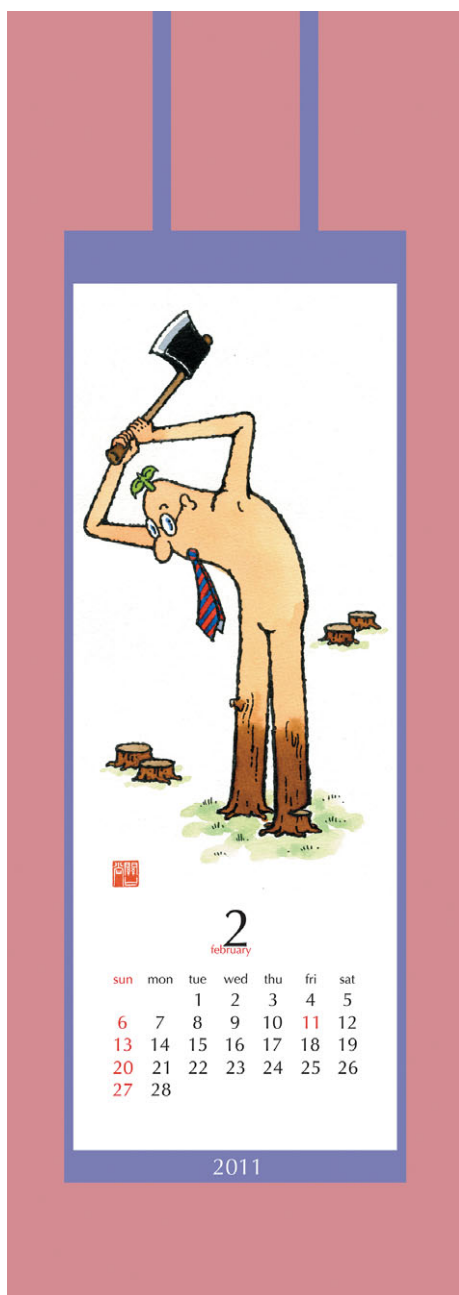
「掛け軸」2011

デザイン+イラストレーション…関口 尚 (Takashi Sekiguchi)

size: 250 mm×707 mm



1月「盆景」/盆栽はミニチュアの自然だ。小さな盆の中に自然の景観が再現され、見事と言うほか無い。人工の自然。相反する2つの顔を持つ不思議な小宇宙。



2月「伐採」/森林の減少が進行している。地球温暖化を引き起こし、生き物達の住処も奪い、結局は我々人間にツケが廻ってくる。木を切ることは自らの足を切るのと同じだ。



3月「落ち葉」/風に舞う落ち葉は叙情的で美しい。しかし木が無ければ、優しい風が無ければそれを楽しむことさえ出来ない。有るはずの無い枝から何故か落ち葉が…。



4月「板桜」/満開の桜。美しい日本の春。しかし良く見ると桜は板状だ。しかも形状も同じ。イミテーションに騙されてはいけない。そこに自然は存在していないのだから。



5月「愛鳥週間」/やれやれ鳥たちも住宅難の時代らしい。数少ない木を集合住宅にしたバード・マンション。人間同様、ゴミ出しや騒音で隣近所ともめてるのだろうか？



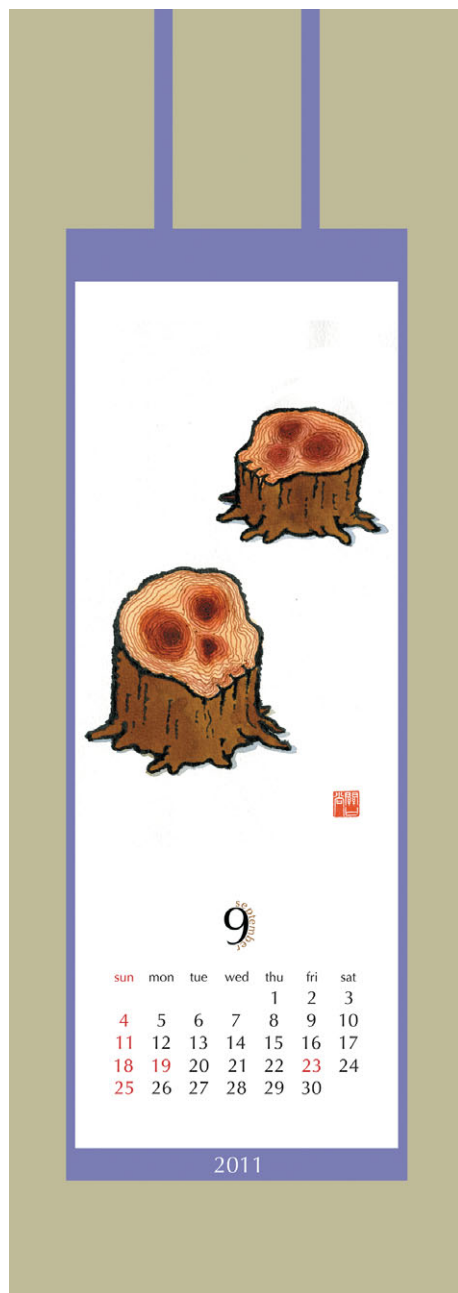
6月「梅雨」/木は何においても有り難い。突然降り出した大雨でも、大きな木の下で雨宿り。傘のように僕たちを守ってくれる。…ところで自分の根元は濡れているの？



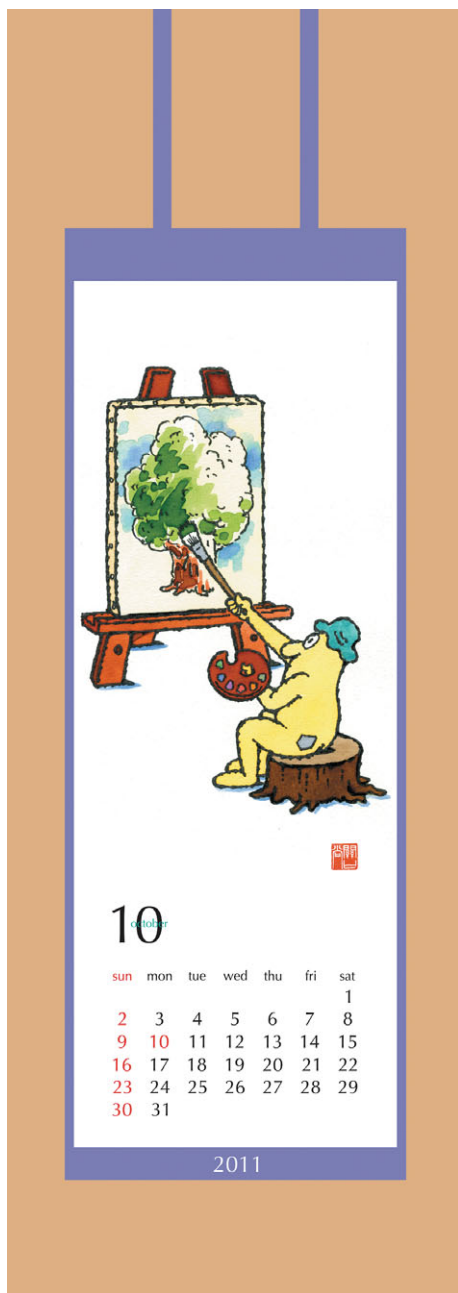
7月「植木鉢」/種を植えて水をあげてるのに、一向に芽が出ない。鉢の外にはたくさん咲き乱れてるのに...、これじゃ鉢植えの意味が無い。野生の生命力には敵わない。



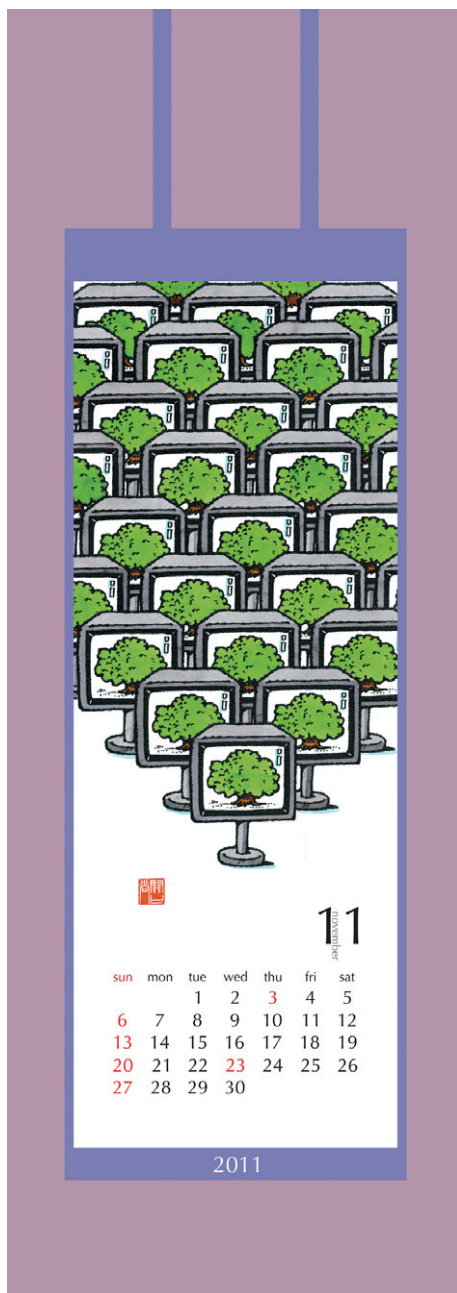
8月「森」/立派な森と思いきや、盆栽の森。人の手が入った人工の森が増えている。伐ったらまた植えれば良い、とは言え一度壊れた自然は簡単には再生しない。



9月「年輪」/年輪は樹が生きた証。従って切り株は傷跡である。木を使う際は、その命に感謝しなければならない。さもないと木の怨念が現れるかも…。



10月「芸術の秋」/失ったものの姿を思い出して描く。どんな傑作が出来ようと、そこにモデルはいない。筆もイーゼルもパレットも腰掛けも、みんな木だというのに。



11月「仮想現実」/技術の進化は結構なことだが、バーチャルなものは現実と非現実の境を曖昧にし、人の目と脳を欺くまやかした。騙されてはいけない。それは森ではない。



12月「クリスマス」/地球環境を守るには、一人ひとりの意識改革が必要だ。願わくばサントさん！世界中の子供達に、木を一本ずつプレゼントしてあげて下さい！！